学校番号	３２５

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	理・文理	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高等学校　改訂版　古典Ｂ」　（第一学習社）						
副教材等	『古典常識も学べる　新明説総合古典文法』尚文出版 『古典常識も学べる　新明説総合古典文法ノート』尚文出版 『ビジュアルカラー　国語便覧』大修館書店 『三訂版　わかる・読める・解ける　古文単語３３０』いいずな書店 『ニューエイジ古典　２』第一学習社						

・一年生で学んだことの定着をすすめるとともに、古典を読解するにあたり必要な知識を身につけよう。
・さまざまな時代の文化や習慣等を理解し、より深く内容を理解しよう。

２　学習の到達目標

学んだ文語文法の知識を定着させ、読解の基礎とする。多くの古典を味わうことで、先人の知識、思想に触れ、自身の考えを豊かにする。敬語・助動詞の習得を目指す。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝えあう力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深めている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字や、慣用表現等について理解し、知識を身につけている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、ワークシート、名作選 定期考査など）	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、ワークシート、名作選 定期考査など）	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、ワークシート、名作選、定期考査など）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	随筆・説話	『方丈記』 「ゆく川の流れ」 『宇治拾遺物語』 「袴垂、保昌に合ふ事」	○		◎	a:興味を持って内容を理解しようと努めている。 c:本文中の助動詞について意味や接続を理解している。	a:行動の観察・記述の点検 c:記述の点検・行動の観察 小テスト・定期考査
1	随筆・歴史物語	『枕草子』 「すさまじきもの」 『大鏡』 「道長と伊周ー弓争いー」	○	◎		a:状況理解や、主語補充ができる。 b:本文中の敬語について敬語の種類や口語訳を正しく行うことができる。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 記述の点検・行動の観察 小テスト 定期考査
2	漢文	『史記』 「鴻門之会」	○	○	◎	a:漢文独特の響きに興味を持って繰り返し音読している。 b:本文の読みを通して言葉の意味を理解し、話の内容が理解できている。 c:訓点が付いている漢文を書き下し文にしたり、書き下し文をもとに、「白文」に訓点を付けることができる。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 定期考査 c:記述の点検・行動の観察 小テスト

2	日記・随筆・説話	『更級日記』 「門出」「源氏の五十余巻」 『徒然草』 「世に語り伝ふること」	○	◎	○	a: 内容を理解し、先人の言葉の巧みさを感じることができる。 b:助動詞や敬語を含む文章を正しく口語訳することができる。 c:国語便覧を通して、筆者の文学史的な位置づけを理解している。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 定期考査 c:行動の観察・記述の点検
3	物語	『源氏物語』 「若紫」	○	◎	◎	a:興味を持って何度もよみ、ストーリーや登場人物の心情を理解しようと努めている。 b:重要語句を押さえながら、現代語訳が出来るようになり、かつ、内容の理解ができている。 c:国語便覧を通して、筆者の文学史的な位置づけを知ることができる。『源氏物語』の誕生したばかりの「光源氏」と登場する女性たちが、その後、どうなっていくのかをおおまかに理解している。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 定期考査 c:記述の点検・行動の観察

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:読む能力
　　c:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。